

ボランティア活動をする市民にとって、県のボランティアセンターは ほんとする場。私たちは、図書館市民団体。3か月に一度会報を印刷・発送作業をする場です。印刷代があまりかからない事や、他団体との接点もある一方、職員はいつも親身になり、快く接して下さいます。頼りがいのある場であり、職員たちです。私はいつも感謝の思いで庭の草花を花束にして持っていきました。そして帰りには ボランティアセンター発行の情報誌『Conte』を持ち帰り、家でゆっくり読んでいました。ある時までは。

持ち帰った福岡県 NPO・ボランティアセンター発行の情報誌『Conte』 vol.34 2014 を開き、驚きました。 <https://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/books/index/year:2014>

特集：「三方よし」の協働とは一企業・NPO・社会が良くなるこれからの事業のカタチ
おっ！進んだ会社があるんだな？と思ったが 表紙の写真と、写真の下の紹介文を読んで驚きました。「企業のマエムキ社会貢献 TSUTAYA 天神駅前福岡ビル店」
写真に納まっているのはおそらくスタッフでしょう。

一見して“あの、ツタヤ”と驚き、中の記事を読んでさらに驚きました。これを記事にするにあたり、ボランティアセンターはどこまで実態を把握していたのだろうか？と疑問に思いました。企業側からの売り込みを 調査することなく、言われるままに 実体を把握することなく、企業の言いなりに記事にしたとしか思えないのです。

自治体の、『知の拠点』とも言うべき図書館を 図書館とは名ばかりの商業スペースに変え武雄市を一変させてしまったのは 蔦屋書店。当時、全国的にも大きな話題となりました。武雄市の当時の首長の無責任さもさることながら、一企業が自治体に接近し、あらゆる甘言を駆使したか 行政トップ、あるいは上層部の権力を持つ立場の人に食い込み、税金の一部をしっかりと吸い上げた、何も武雄市に限らないのです。福岡市も、そのターゲットになっていましたから。

これ迄 全国の蔦屋書店で売れ残った書籍は福岡市に集積し処分していたそうです。その、処分対象の書籍を福岡市内の公民館に“寄付”という形で、持ち込み、公民館への配送費用は福岡市が支払う、というのですからツタヤ関係者は笑いが止らなかったでしょう。

売れ残った本を頂き、送料を支払うくらいなら、その送料で地域の実態に合った本を購入したほうがどれだけ地域住民に喜ばれ、且つ、還元できたのではないのでしょうか。福岡市がその実態を分かっている 受け入れたとしたら、という言葉も見つかりません。

福岡市の責任、県の責任 双方にあると思います。本来はボランティア活動をする県民の後押しをするはずの県のボランティアセンター広報誌に、『地域貢献』という美名のもと

力丸世一「企業のマエムキ社会貢献」2022年1月26日

一私企業を実態以上に高く持ち上げ、掲載したことは企業側に加担したとみられても仕方がない事。残念である気持ちは伝えました。

身近な図書館の会・福岡 会員 力丸